

(患者・家族用 M・F K・F)

1990年 月 日
社団法人 日本看護協会

療養相談に関するアンケート

☆問10までご記入ください。

問1 患者さんのお年 満 歳

問2 当院への入院経験

① 有り ② 無し

問3 当院の保健婦・看護婦の家庭訪問

① 受けている ② 受けたことがある ③ 受けたことはない

問4 この相談に来るようになったきっかけは何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

① 自分で見つけて ② 相談部門の保健婦・看護婦に話しかけられて
 ③ 当院の主治医に指示・紹介されて ④ 当院の看護婦に紹介されて
 ⑤ 保健所や市町村の保健婦、福祉担当者に紹介されて
 ⑥ 他の患者・家族に紹介されて ⑦ その他 ()

問5 この相談部門の保健婦・看護婦と面談した回数

① 初めて ② 2～4回 ③ 5～9回 ④ 10回以上

問6 1回の相談時間（その時々で違う場合には、いくつでも○をつけてください）

① 15分未満 ② 15分～30分未満 ③ 30分～1時間未満
 ④ 1時間～2時間未満 ⑤ 2時間以上

問7 病名（お差し支えなければ当病院で治療中の病名をお書きください。）

問8 現在治療中の病気について、病院や保健所などが主催する教室・勉強会に出たことがありますか。

① 出たことがある ② 出たことはない

問9 患者会または家族会へ参加したことがありますか。

① 参加したことがある ② 参加したことはない

問10 相談部門の保健婦・看護婦に相談したり、指導を受けたりすることは、療養生活を送る上で役立ちますか。

① 大いに役立つ ② まあ役立つ ③ 特に関係ない

○保健婦・看護婦へのご意見がございましたら、自由に裏面にご記入ください。

看護職による相談活動

☆このページは、調査員がお聞きしながら記入いたします。

問11 相談部門の保健婦・看護婦に相談したり、指導を受けたりしたことは、療養生活上、どのような点で役立ちましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 知らなかったことや疑問に思っていたことがわかった。……→どのようなことですか。 ①病気 ②治療 ③薬 ④食事 ⑤酒・たばこ ⑥安静・運動 ⑦医療器具の使用 ⑧病状変化の見方・対処方法 ⑨介護方法 ⑩その他
2 自分で（家族が）行なう力がついてきた。……→どのようなことですか。 ①病状の把握 ②食事のコントロール ③酒・たばこのコントロール ④安静・運動のコントロール ⑤薬・注射の管理 ⑥医療器具の使用 ⑦医師に上手にかかる ⑧介護 ⑨福祉制度の利用 ⑩その他（ ）
3 いつでも相談できるという安心感があった。
4 気になること、不安、つらい気持ちなど聴いてくれ、気持ちが落ち着いた。
5 医師と話しやすくなった。
6 生活の仕方、生活習慣を変えようと思うきっかけとなった。
7 療養（介護）生活を送りながらも、したいことができるようになった。
8 自分（家族）の病気と付き合っていけるようになった。
9 その他（ ）

問12 上の質問で特に役立ったと思われることについて具体的にお聞かせください。

問13 相談部門の保健婦・看護婦に相談するのと医師へ相談するのとでは、相談内容や相手の対応が違いますか。

① 違う	② 変わらない
------	---------

→どのような点が違いますか。気がついたことをお聞かせください。

問14 この病院のように、医療・療養のことなどについて相談できる部署が病院に設けられていることをどうお考えになりますか。

① 是非必要	② あった方がよい	③ どちらでもよい	④ 必要ない
--------	-----------	-----------	--------

―― 質問は、以上で終わりです。 ご協力どうもありがとうございました。――